

# 30P2-am139

乳児喘息モデルマウスに対するモンテルカストの治療的早期介入効果には雌雄差が認められる

齋藤 克代<sup>1</sup>, ○森 哲哉<sup>1</sup>, 青木 一恭<sup>1</sup>, 西澤 由紀菜<sup>1</sup>, 徳山 研一<sup>2,3</sup>(<sup>1</sup>高崎健康福祉大薬,<sup>2</sup>埼玉医大小児科,<sup>3</sup>埼玉医大アレルギーセ)

【目的】乳幼児の気管支喘息（喘息）において、ロイコトリエン受容体拮抗薬（LTRA）は、長期管理薬として推奨されている。一方、このLTRAの効果には男女差があるとの報告がある。今回我々は乳児喘息モデルマウスを用いてLTRA（モンテルカスト：MK）の治療的早期介入効果の雌雄差に着目して検討した。

【方法】生後2週のNC/Ngaマウスに吸入麻酔下でダニ粗抗原（Df）を連日点鼻投与（Day3-7）した後、Day16と17に同抗原を追加投与した。MKはDay1からDay17まで連日経口投与した。Day18に、気道過敏性を測定したのち気管支肺胞洗浄液（BALF）を採取し、好酸球浸潤や各種Th1、Th2サイトカイン量を測定し、MKの効果を経験別に評価した。

【結果】雄性マウスでは、MK投与により気道過敏性亢進は抑制されたが、BALF中の好酸球数やIL-5濃度の増加は抑制されなかった。逆に雌性マウスでは、BALF中の好酸球数やIL-5濃度の増加は抑制されたが気道過敏性亢進は抑制されなかった。

【結論】幼若マウスにおいては、モンテルカストの作用機序に雌雄差がある可能性が示唆された。